

# まちのキラリびと



火災や災害などの有事に備えて、訓練や器具の点検を行っています。

敦賀美方消防組合 敦賀消防団長  
堀居 秀夫さん

## 地域の安全・安心のため、消防署と共に車の両輪として活動

消防団は、消防組織法に基づき各市町村に設置される消防機関です。団員は、非常勤特別職の地方公務員で、普段は本業を持ちながら、火災や大規模災害の際に、自宅や職場から災害現場に出動し、消防活動に当たります。

敦賀消防団は、昭和45年に設置され、市内各地域を8つの分団が管轄し、総勢279人が活動しています。災害現場活動に従事する一般団員のほか、防火などの啓発活動や災害時の後方支援を主に行う「女性活動班」や市立看護大学の協力を得て、応急手当の普及に特化した「機能別班」も組織し、地域の防火・防災力の強化にも努めています。

消防団員は、地元事情に通じ、地域に密着した存在であり、災害時にも即応できるように、訓練や教育を受けています。その地域密着性・動員力・即応力から、消防署と車の両輪のように連携しながら、有事の消防活動・平時の地域防災活動を行っています。

大規模災害が増えた昨今、消防団の役割はより重要になっておりますので、今後とも信頼されるよう、活動を続けていきます。

最後に、一緒に消防活動を行う団員を募集しておりますので、少しでも興味を持たれた方は、是非入団してください。



↑消防大会一斉放水  
↓出初式分列行進  
←消防隊「つるが鷹」演技



## まちの宝を発見!

# つるが歴史遺産

新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年続き「敦賀まつり」が中止となり、寂しく感じている方も多いのではないのでしょうか。祭りの象徴ともいわれる山車巡行ですが、敦賀を含め、全国各地で行われる山車の祭りの起源は、京都の祇園御霊会(祇園祭の基となった神事)といわれます。昔は、流行り病や災いは御霊(怨霊や疫神)の祟りで起こると考えられ、それを町の外へ追い出すために、長い鉾や高い木、山をかたどった飾り物などに御霊をより付けさせ、川や海に流したり壊したりしたのが山車の祭りのルーツだと考えられています。

敦賀では、発祥は定かではありませんが、室町時代の末期ごろには存在したとされ、商人たちの豊かな財力もあって、どんどん豪華になり、武者飾りなどの趣向が人々を驚かせ楽しませるものへと変化していきました。江戸時代に敦賀の様子を書いた「遠眼鏡」には、一つの山車を500人も人が引き、近国から大勢の見物人が訪れにぎわったと記されています。

そうして、だんだんと山車に疫病退散を祈ることがなくなっていくたと思われまます。ですが、病気や災害を鎮めたいという人々の切なる願いは今も昔も同じです。

今年の9月4日は、巡行は叶いませんが、格納庫を開けて、飾り付けた全6基の山車を展示します。山車を生み出した先人たちに思いをはせ、山車に無病息災を祈ってみてはいかがでしょうか。(22頁参照)



山車巡行



案内人 学芸員 奥本 律子

昔の山車の話・写真を募集中!  
些細なことでも大歓迎です!

## 広報担当者のつばき

夏本番に入り、家庭菜園のミニトマト・ナス・ピーマンが食卓を彩ることが増えてきました。子どもたちも、自分たちで育て収穫した野菜は、いつもより口にしてきているような気がします。遠くへ遊びに行く機会がなかなか持てないので、おうちで楽しめる出来事を増やしてあげたいと思います。(K)

スポーツの撮影では、遠くからしか撮れないことが多いため、望遠レンズが必須となります。先日行われたインターハイでは、多くのカメラマンが来ており、全員がバズーカみたいに大きなカメラを持ってきていました。そんな中、私のカメラは普通のサイズ。少し引け目を感じながら撮影しました。(M)